

問答有用

ワイドインタビュー

437

「知的フェアトレード」を提唱

エムデ・モイン

バン格拉デシユ出身起業家

日本人は格安に英会話を学べて、フィリピン人講師は適正な収入を得られる——バングラデシユ出身のエムデ・モインさんは、離れた2つの国のニーズをオンライン英会話でつなぐ事業に取り組む。彼が目指す「知的フェアトレード」とは。

「知的フェアトレード」とは何ですか。

モイン フェアトレードは、途上国で生産された製品を労働に見合った価格で買い取り、販売することで、生産者の経済的自立を目指すものです。通常はカカオや衣類などの物品の取引に用いられますが、知的な労働も同じように本来の価値に見合った価格で取引されるべきだと思います。このコンセプトを考えました。

モイン モノは簡単にトレードできますが、知的労働は難しい。でも、インターネットを使えばそれを実現できます。インターネットを使った英会話はその1つです。オンライン英会話は、スカイプ（インターネットのテレビ電話）を使って英会話のレッスンをするというものです。日本人は格安な料金で英語を学べて、フィリピンの講師は語学を生かして生計を立てられる。お互いのメリットをフェアにトレードできます。

モイン フィリピンでは、最難関のフィリピン大学を卒業しても仕事がない人がたくさんいます。失業率は政府統計では7%ですが、実際には20%近いと言われています。最高レベルの大学教育を受け、なまりのなきれいな英語を話す学生が多いのに、その能力を生かして仕事に就く機会がないわけです。いくら本人の能力が高くても、生まれ育った国や地域によって労働の機会や対価が大きく違うのではフェアな世界とは言えません。

フィリピンでは特に女性の失業率が高く、離婚率が高いのでシングルマザーも多い。大学時代のフィリピン人の同級生の女性は大きな問題だと指摘していました。だから、フィリピン人の優秀で、英語ができるシングルマザーを優先的に講師として採用しようと考えました。

現在の講師数は。

モイン 290人くらいです。初めのころは、同級生の彼女の同窓会ネットワークを使って集めました。講師は仕事のないシングルマザーが40

「ネット英会話で知的労働を公正に取引したい」



●プロフィール● エムデ・モイン
1979年、バングラデシユ・チッタゴン生まれ。ダッカ大学入学後、22歳で立命館アジア太平洋大学に留学。05年3月同大を卒業し、住友電装入社。07年にドイツの大手自動車部品メーカー、ポッシュに転職。在職中に筑波大学でMBAを取得した。10年11月、社会的企業として、オンライン英会話スクールのピクトを設立。12年、日本に帰化。妻と2人の子がいる。

撮影：佐々木 龍

「日本は先進国なのでみんな英語を話せると思っていました」

%くらい。70%が女性で、平均年齢は27歳です。

—— フィリピン人が講師を務めるオンライン英会話の会社はほかにもありますが、フェアトレードというよりは収益構造が違うわけですか。モイン おそらく、他社よりも私が立ち上げたピクトの方が講師料は高いと思います。生徒が払う授業料は30分レッスンが15時間で月48000円。通常の英会話学校の料金は月6

000円から8000円なので、それよりもだいぶ安いです。また他のオンライン英会話よりも価格を抑えました。

授業料の収入は1時間当たり320円（140円）で、その中から70%を講師に払います。講師歴が6カ月以上の人は、1時間当たりの授業料が150円以上になります。1日7時間、24日前後勤務して、だいたい月2万（約4万5000円）の収入

を得られます。フィリピン人の一般企業の給料は概ね月2万なので、同程度になるようにしています。それだけあれば、ある程度豊かな生活ができるし、子どもも育てられます。

—— 残りの30%前後でオペレーションをやっている。モイン そうです。専属のエンジニア、現地スタッフなどもいるので、すごく厳しいです。2012年の年商は3800万円くらい。なんとか

赤字にならずにすみましたが、昨年未まで私の給料はゼロ。だからやりくりできました。

日本に留学

1979年、バングラデシユのチッタゴンに生まれ、父は外科医、母は病院経営、妹も医師、兄は経済学博士というエリート一家に育った。モインさんもダッカ大学医学部に進学したが、1年生の時に経営学部へ編入している。ダッカ大学はバングラデシユの最難関校。国を背負うエリートが留学先に選んだのは日本だった。

—— なぜ留学先として日本を選んだのですか。

モイン バングラデシユの留学先としては、欧米の方が主流です。でも、私はバングラデシユ人が少ない国で挑戦したかった。父の影響も大きいと思います。父は世界各国で講演をしているのですが、日本で講演した時の印象がとてもよかったです。子どものころから日本のことを話して聞かせてくれました。

それで、ダッカの日本文化会館に日本の大学を調べに行っただけです。そこで、たまたま立命館アジア太平洋大学（APU）の生徒募集のポスターを見つけました。世界60カ国の

「英語だけでなく、スペイン語や中国語などにも事業を広げたい」



——日本の印象はよくなかったか？

モイン 地域の人も時間の経過とともに慣れたようなので、悪い印象はありません。むしろ、日本政府の奨学金を利用して留学したので日本には感謝していますし、日本に役立つことをしたいと思えました。そこで、大学時代に別府の町で大学の友人と一緒に英会話の塾を始めました。96人の別府の市民が参加してくれました。英語力強化による日本人のグローバル化を意識し始めたのはその頃です。

大学卒業後、05年に住友電装に入社。07年に自動車・産業機器のドイツ系大手企業、ボッシュに転職し、アジア地域担当のマネジャーとして活躍した。その傍らで、オンライン英会話の会社を立ち上げた。

——大学を卒業して、日本企業に就職した。

モイン 日本のものづくりを勉強しなくては住友電装に入社しました。三重県四日市市の本社で、海外事業拡大に関するビジネスプランの策定などににかかりました。仕事に大きな

不満はなかったのですが、学生時代から勉強していた経営学をさらに深めて、MBA(経営学修士)を取得したかった。それは四日市では難しく、東京に行くほかないと、07年に退職しました。

——ボッシュに転職したわけですか。

モイン ボッシュでは、幹部候補生としてマネジャーを育成するためのプログラムに参加し、1年間で15部署を経験して、翌年アジア地域のマネジャーになりました。ものすごくやりがいがありました。

——働きながら、オンライン英会話も立ち上げた。

モイン リーマン・ショックの後に少し時間に余裕ができたんです。それで09年7月から筑波大学のMBAコースに通信開始しました。

MBA1年目に新しいビジネスのことをたくさん勉強して、すごくわくわくしました。その時にピクトのビジネスモデルを作り、授業でもプレゼンテーションして、すごく評価されて「すぐにやった方がいい」と言われた。これでこのままの勢いで会社を立ち上げなければ、と思ったんです。

——平日はボッシュに勤務して、オンライン英会話のビジネスは休日やるわけですね。



モインさん(左から2人目)が学んだAPUは国際色豊か

ユヌス総裁に憧れて

モイン ものすごく大変でした。MBA、ボッシュの仕事、ピクトの立ち上げ、それにちょうど長男も生まれて、とても忙しかったです。睡眠時間が1時間半とか2時間くらいの時期が続きました。でも、すでにオンラインの英会話のビジネスが登場し始めていて、自分も早く始めなければと思えました。「知的フェアトレード」という言葉も、誰かが使い始める前に自分がやらなければ、と思ったんです。

——なぜ、ソーシャルビジネス社会問題の解決に取り組む事業を選んだのですか。

モイン ノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行のムハマド・ユヌス総裁の影響が大きいです。ユヌス氏は

私と同じバングラデシュのチッタゴンの出身で、30でグラミン銀行を立ち上げて貧しい人々に低利で融資して、生計をたてられるように支援しました。彼はソーシャルビジネスの元祖であり、私のヒーロー。私もソーシャルビジネスで日本に恩返ししたいという気持ちがありました。

——ソーシャルビジネスはNPO(非営利団体)とは違うわけですか。

モイン NPOは非営利ですが、ソーシャルビジネスは利益を追求します。でも、利益が最優先で、その後社会貢献がある一般企業とも異なります。ソーシャルビジネスは、社会に貢献してそこから利益を得ていくという発想です。

——ピクトを立ち上げて苦労したことは。

モイン フィリピン人講師の育成です。時間通りに来なかったり、レッスン終了後に引き継ぎ用のノートを書いてなかったり。何回注意しても同じことをやる人がいます。

また、「お母さんが急に病気になる」「交通渋滞で遅れた」「急におなかを壊した」とか単純な言い訳でレッスンの来ない、ということが普通にあるわけです。

——日本人にもいいかげんな人はたくさんいます。

モイン いいえ、私はこれまでに34カ国に行きましたが、日本人ほどし

っかりしている国民はいません。時間通りに来て、約束を守る。これはすごく良いところだし、他の人もそれを取り入れるべきです。私は講師のトレーニングの時に「東京の山手線は、朝のラッシュ時は1分ごとにホームに電車が来る。少しでも遅くなったら、お客にアナウンスがある。日本はそれくらいしつかりしている」と必ず言うのですが、そんな国ほかにありません。

——11年1月にピクトがスタート

「日本人は教育水準が高く、約束を守るし、質も落とさない。ただ1つ、語学で負けています」

して2年ですが、12年末にボッシュを退職した。

モイン ボッシュからこれまで3回くらい海外転勤を打診されて断ってきたので、これ以上は申し訳ないなと思って。ピクトで日本企業向けに海外進出のコンサルティングもやりたいと思ったのですが、会社に勤めながらでは無理です。

でも、ボッシュをやめるからにはピクトから給料をもらわないといけない。知的フェアトレードのモデル

も崩せません。13年3月からコンサルを始めますが、その立ち上げ準備も含めて、なんとか生活費をもらえるくらいの収入にはなりそうです。でも、私の給料、今年から初任給と同じくらいになってしまいました。がんばらないといけません。

日本に帰化

——日本では中学から英語を勉強しているのに、英語を話せない人が

1年でだいたい1500時間勉強した時期がありました。A4サイズの紙に漢字を書いて、毎日10語ずつ覚えしました。後はたくさん本や漫画を読みましたね。コンビニエンスストアで売っている廉価版の漫画をいつもカバンに入れていました。

英語に挫折する人は数カ月の勉強をやめてしまう人が多いですが、少しずつでもいいので継続して勉強すれば、日本人の英語力は高まるはずなんです。

——日本に帰化したそうですね。

モイン バングラデシュに比べて、日本はとても安全な国です。2人の子どもの子育てを考えた時、日本国籍があった方がいいだろうと思って10年4月に長男が生まれてすぐのころに申請の準備を始めて、12年6月に帰化しました。

——日本人は英語ができるようになれば国際的に活躍できるようになりますか。

モイン 絶対になるとは思いません。日本はすごく教育水準が高くて、約束を守る、納期を守る、質を落とさないという基本的なところが他の国よりもよくできています。すごくまじめです。たった1つ、語学で負けている。それさえできれば、他国の人に日本に来てもらってビジネスができるし、外国人も日本人から学ぶものがたくさんあると思います。